

スピCHスカパー杯

CTC杯

FI



8/19(水) 20(木) 21(金)

ナイター
開催

川崎スポーツ

レース展望

8月19日からの川崎S級シリーズは久々のナイター開催で、スピCHスカパー杯・CTC杯。昨年11月からのメインスタンド改修工事を終え、S級・A級ともに全国から好選手が集まり、連日の熱戦に期待したい。

S級戦の地元S1ではガッツマーカーの内藤秀久(89期)、24年10月に当地GⅢを制した福田知也(88期)が参戦。南関には今期は2班ながら6月にそれぞれFIを制している静岡の大石剣士(109期)・長田龍拳(117期)の強力自力型が揃い、後輩の堀内俊介(107期)までいて目標に事欠くことはない。連日気合の入ったレースを見せてくれそう。関東は機動型がやや手薄だが、ダッシュ鋭い中嶋宣成(長野113期)がレースを

引っ張り、大矢崇弘(東京107期)・志村太賀(山梨90期)・土屋壮登(埼玉101期)がそれに続いて好連係を目論む。近畿からは自在脚を持つ高久保雄介(京都100期)・今期は1班のマーク型藤田勝也(和歌山94期)が登場し、直線鋭いキメ脚を発揮から突っ込みを見せる場面がありそうだ。中四国勢は層が厚く、勢いに乗る徹底先行遠藤拓巳(香川125期)や青木瑞樹(岡山123期)がブンブン駆ける可能性が高く、捲り脚健在の小川真太郎(徳島107期)・差脚衰えない筒井敦史(岡山85期)が展開有利にレースを運びそう。九州には自在型が集まり、松川高大(熊本94期)・市橋司優人(福岡103期)・徳永哲人(熊本100期)はそれぞれ単騎勝負も苦にしないタイプであり、一

撃を狙って虎視眈々。

A級戦は各地区に90点を持つ自力型がそれぞれ配置されV争いは接戦だ。上遠野拓馬(宮城119期)・荒木貴大(埼玉115期)・志佐明(神奈川107期)・近谷涼(富山121期)・船瀬惇平(広島111期)・長野魅切(愛媛127期)・徳永泰粋(熊本123期)らが積極的な組立てでレースを作り、マーク型の杉山悠也(秋田89期)・巴直也(神奈川101期)・小嶋敬二(石川74期)・肥後尚己(大阪83期)・近藤修康(岡山67期)・森安崇之(香川84期)などがそれぞれ目標から直線で差脚を伸ばしていくはずだ。

脚力差が無くV争いは激戦

S級
主力選手



内藤秀久 神奈川 89期

南関屈指のガッツマーカー。今年はVもあれば予選敗退もあり、なかなか安定していないが、卓越したマーク技術と機動型への献身的な援護は健在。川崎バンクが再開されて初めてのF1戦の今節は地元の中核として参戦。地元Vで今年の後半戦に勢いをつけたい。

S級
主力選手



長田龍拳 静岡 117期

6月久留米でS級初Vを達成。長田の実力を考えれば遅すぎるくらいのイメージだが、積極的な走りで着実にパワーアップしている。初Vは単騎での捲りで決めているが、長田の真骨頂はダッシュ力を生かした豪快なカマシ。南関勢の頼もしい先導役として躍動する。

S級
主力選手



小川真太郎 徳島 107期

7月函館では黒瀬浩太郎(広島123期)のまくりに乗って久々のV奪取。今年の序盤は誘導員早期追い抜き失格によるペナルティーで棒に振ったが、ようやく波に乗ってきた。近況は自力の頻度は減ったが、今シリーズは巧みなレース運びで自分で戦う場面は増えそう。

A級
注目選手

志佐 明 神奈川 107期



かつてはS級でも活躍していた実力者がようやく上昇気配。成績もまとめて、競走得点も90点前後に浮上。本人は「成績は良いけど、状態自体はまだまだ」と言うが、復調の気配はだいぶありそう。近況の主戦法は捲りだが、流れに応じた自力勝負で地元V狙う。

A級
注目選手

長野魅切 愛媛 127期



輪歴は浅いが野球で培った身体能力を生かし先行で活躍。しっかり長い距離を踏める地脚が魅力。3月い松山で開催されたルーキーチャンピオンを制し、番手回りとはいえ一生に一度の開催を、しかも地元でV奪取と勝負強さと巡り合わせに大器の予感も感じさせる。

川崎競輪場バンクガイド (2024年1月~12月データ)

昨年1年間28開催・936レース(ガールズケイリンを含む)の川崎バンクの決まり手は右表の通り。昨年までのデータと逃げ・捲り・追込・マークのパーセンテージには大して変わりはないが、1着に限って言えば逃げ・捲りの決まり手は変わらず50%を超えているので、自力型のアタマから組み立てていく車券戦略が可能だろう。川崎名物イエローライン付近のゴール前強襲は、選手たちも新バンクに慣れて徐々に出現率が高くなってきている感であり、力のある追込型はたとえ後方に置かれたとしても、最終4コーナーから一気に巻き返す可能性もあり軽視出来ない印象だ。

1着決まり手



2着決まり手

